

雑 報

国立天文台の天文情報普及室について

国立天文台の幹事会議での議論の結果、台内委員会の一つとして天文情報普及室を設置することが決められ、昭和 63 年 12 月より活動を始めた。旧東京天文台では、新天体の発見などの際、国際天文学連合天文電報中央局との情報の伝達、受け取り作業と一般の方からの各種の天文に関する質問（電話や手紙）に対する応対をしてきた。前者は旧天体掃索部が、後者は各部門の方々の協力のもとに行われていた。東京大学東京天文台から国立天文台に移行した機会に一般への情報提供、普及活動をより有機的にするべきであるという認識の下に天文情報普及室が設置された。室員には旧来中心的な役割をはたしてきた旧天体掃索部の磯部、香西、平山、佐々木となっているが、各種の対応に関しては各系各部門による協力の下に行われている。

現在行っている活動と計画している活動は次のようなものである。

1. 一般質問 一般市民から多数の質問が郵便・電話等で寄せられる。(天文情報普及室の質問受けつけ用電話番号は 0422-41-3688 一本しかない。受け付け時間は月曜から金曜の 9 時～12 時と 13 時～17 時で、質問には臨時職員の積田、清水が主に答えている。) 1988 年 7 月国立天文台発足後 1 年間の質問の内容と割合は次の通りで、初歩的なものから最新のニュースに関するものまで多岐にわたっている。(合計 3000 件)

イ) 日の出・入、南中など	950
ロ) 月(太陰暦と太陽暦)に関するもの	380
ハ) 学校の理科教育に関するもの	167
ニ) カレンダーに関するもの	830
ホ) 天体現象に関するもの	673

天文情報普及室としてはなるべく多くの質問に対応したいと考えているが、なんでもかんでも質問すれば良いと考えている方がおられ少し困っている。質問内容を少し整理してできれば理科年表を見てから質問してもらえれば短時間に有効な答えができる。もう一つの問題点はクイズ番組の問題作成のための質問や旅行者の外国各地の日の出・入りなどの営業用に使う質問が多いことである。これらの質問は 1 ヶ月分のデータを要求したりするので、現在では 1 日分のデータしか提供しないことにしている。

今後共、質問者の協力を得てより広い方により良い情

報提供をしたいと思っている。

2. 新天体に関する情報 新天体の発見に関する報告が年間 100 件あまり寄せられている。(新天体発見報告の受けつけ用電話番号は 0422-41-3691 である。報告内容は天体の星座又は赤径・赤緯、発見時刻(分の精度)、明るさ、および、報告者の氏名・電話番号である。) これらの報告の大部分は既知の天体であったり、写真のコースであったりして、2%～5% が新天体(彗星、新星、超新星など)の発見である。1971 年から 1988 年までの総発見数と日本での発見数は 12 等までの彗星 52 個の内 20 個(38 人)、新星 44 個の内 23 個(23 人)、超新星 8 個(9 人)であり、日本での発見の比率が他を大きく引き離している。これらの発見をより有効にするために、報告されたデータに対して迅速に確認作業を行い、天文電報中央局に通知することが大切である。

3. 普及活動 自治体の教育委員会が主催する理科教育講習会などで、教師を対象とした実地講習を行っている。さらに今後は、全国各地に存在する天文教育施設(プラネタリウム館など)の指導者や、指導的立場にあるアマチュアを対象とした講習会などを計画しており、平成元年度中に第一回の会を開く予定である。

さらに、このような指導的立場にある方のためのマイコンと電話回線を使った天文データサービスのためのネットワーク作りを始めている。又、一般参観者のための展示室の整備をしたいと考えている。

天文情報普及室は初めての組織であるのでまだ十分な活動が行われていないし、試行錯誤的に進めなければならない状態であるので、多くの方々の御教示と御支援をお願いしたい。

なお、国立天文台として、三鷹本部、野辺山宇宙電波観測所、堂平観測所、岡山天体物理観測所で年 1 回程度で一般公開を行っており、又、月に 1～2 回主要施設の見学会を行っている。 磯部 秀三

du Toit-Neujmin-Delport (1989I) 周期彗星と、 Lovas 1 (1989o) 周期彗星の検出

国際天文学連合回報 IAU (4787 号によると、パロマ一天文台の J. Gibson は、1.5 m 鏡に CCD を使用して、du Toit-Neujmin-Delport 周期彗星を全光度 18.5 等級で検出した。また、IAUC 4799 によると高知の関勉氏も独立にこの彗星を光度 19 等で検出している。2 人の検出時の位置は下の通り。

1989 年 U.T.	α (1950.0)	δ	
5 月 22.26339	15 ^h 20 ^m 16 ^s .69	-14°21'05".2	J. Gibson
5 月 26.58090	15 16 37.8	-14 01 02	関 勉
			また、IAUC 4813 号によると、関 勉氏は Lovas 1

周期彗星を世界に先がけて下の位置に検出している。

1989年 U.T. α (1950.0) δ
7月 7.77206 $2^{\text{h}}04^{\text{m}}40^{\text{s}}.92$ $+17^{\circ}41'16''.4$ 17.5等

関氏の上記2彗星は、いずれも60cm反射により検出されたもので、関氏にとって周期彗星の検出はそれぞれ15個目、16個目に当る。(香西洋樹)

☆ ☆ ☆

お知らせ

山田科学振興財団研究援助候補推薦について

山田科学振興財団より本会あてに、下記内容の1990年度分研究援助候補の推薦依頼がありましたのでお知らせ致します。

記(推薦要領抜粋)

1. 援助の対象: 自然科学の基礎的研究(実用指向研究は対象外).
2. 援助の金額: 1件 300~700万円の援助を10件内外.
3. 援助の期間: 1990年4月~1992年3月.
4. 推薦件数: 1推薦者ごとに2件以内.

申請用紙をご入用の方は、学会庶務理事までお申し出下さい。申請書は、1990年3月10日までに学会あて提出して下さい。

賛助会員名簿

(1989年10月5日現在の本会賛助会員は下記のとおりです。ここに社名、代表者名を掲載させて頂いて感謝の意を表します。(五十音順))

旭光学工業株式会社
朝日新聞社科学部
アストロ光学工業株式会社
(株)アムテックストア
宇宙開発事業団
大阪市立電気科学館
沖電気工業株式会社
第2営業本部
カールツァイス株式会社
河出書房新社
(株)教育社 Newton 編集室
啓文堂松本印刷社
国際文献印刷社
コダック・ナガセ(株)
恒星社厚生閣
五藤光学研究所
コロンビヤ貿易株式会社
金光教本部
(株)三シャインプラネタリウム
サンシャインプラネタリウム
スライデックス(株)
誠文堂新光社
(株)誠報社
(株)立風書房
地人博物館
天文博物館
五島プラネタリウム
東京学術印刷株式会社
東京電力株式会社
中央給電指令所

松本 徹雄
森 曉
岩川 毅
佐藤 邦男
緑 川 享
大北 澤 弘
北 澤 淳
一宮 明男
ハインツ・シュミット
清水 勝夫
寺門 和夫
笠井 康弘
笠井 卓也
佐竹 久男
藤田 利一郎
五飛 隆一
金光 鑑太郎
恒川 稔朗
佐々木 永祐
尾関 二郎
小川 茂郎
小泉 博功
下野 博夫
中田 威夫
横田 二郎
船越 昭二

(株)東北電力株式会社
名古屋放送株式会社制作部
ナルミ商会
(株)西村製作所
(株)ニコ製
日本コントロール
システム株式会社
(社)日本測量協会
日本通信機株式会社
日本特殊光学
(株)ニホン・ミック東京本社
日本ユニシス株式会社
中部支社
日本洋書販売配給株式会社
(株)ニユートリノ
浜松ホトニクス株式会社
ファコム・ハイタック(株)
ファコム本部文教営業部
富士通株式会社
システム統轄部
丸善株式会社
三鷹光器株式会社
三菱電機株式会社
宇宙衛星通信部
ミノルタカメラ株式会社
森田清社
雄山閣出版株式会社
(株)渡辺教具製作所

青玉 繁家
井川 田 彦
松上 川 恒
村西 村 猛
福 岡 雄
和 田 美
坪 川 恒
中 山 坂
山 田 一
萩 村 美
杉 原 美
渡 辺 正
山 本 憲
畫 馬 輝
村 林 昭
小坂 義裕
海老村 原熊
中 村 義一
望月 孝則
田 嶋 英雄
長坂 一雄
渡 辺 哲郎